健康と信頼をお届けする

日清製粉グループ

2014年3月期
第2四半期決算説明会

2013年11月1日

株式会社日清製粉グループ本社

目　次

Ⅰ．小麦相場・TPP

Ⅱ．第2四半期（累計）実績と通期見通し

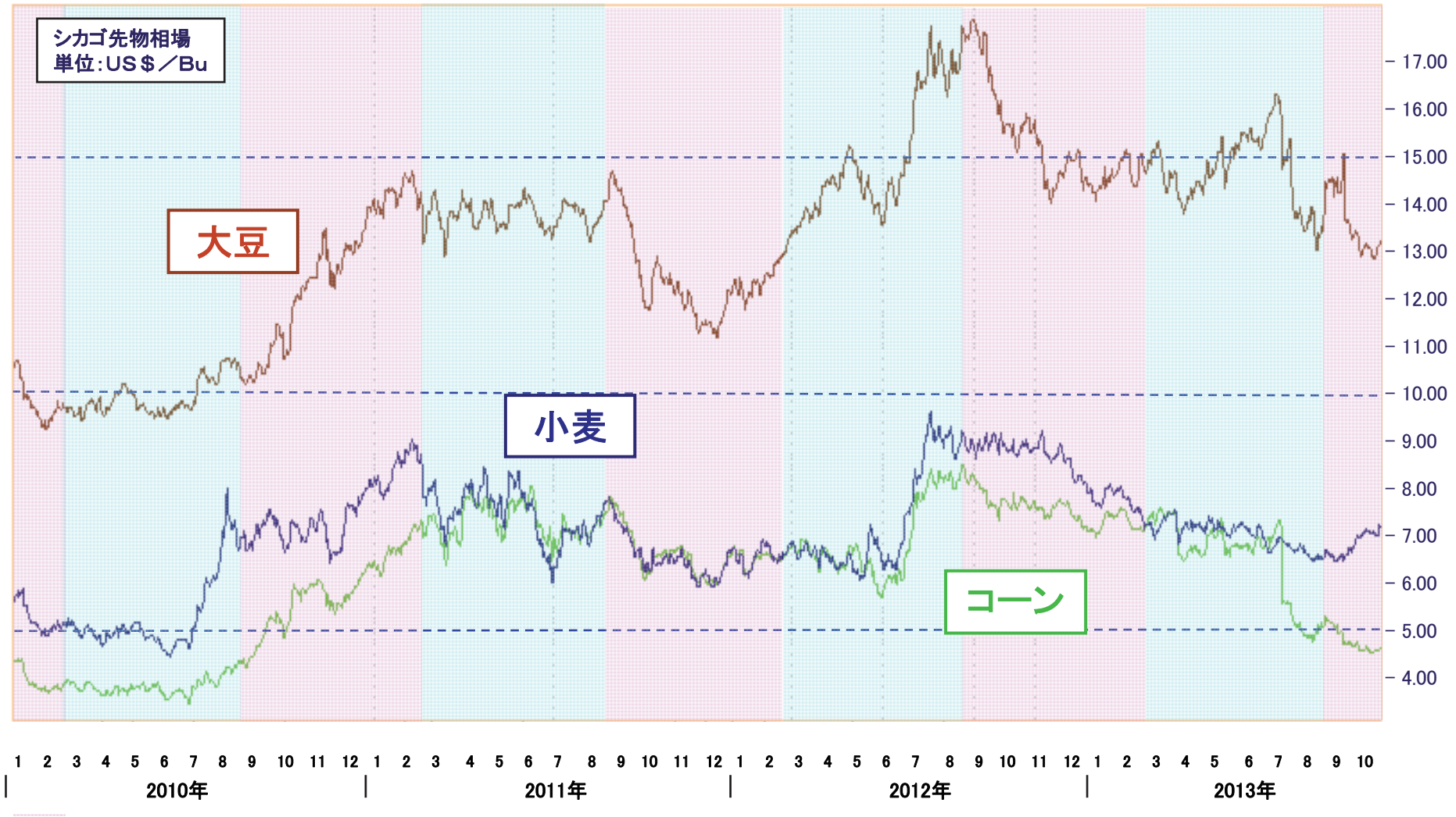
Ⅲ．中期経営計画の進捗と具体的成果

Ⅳ．利益配分について

Ⅰ．小麦相場・TPP

1．小麦相場の状況①

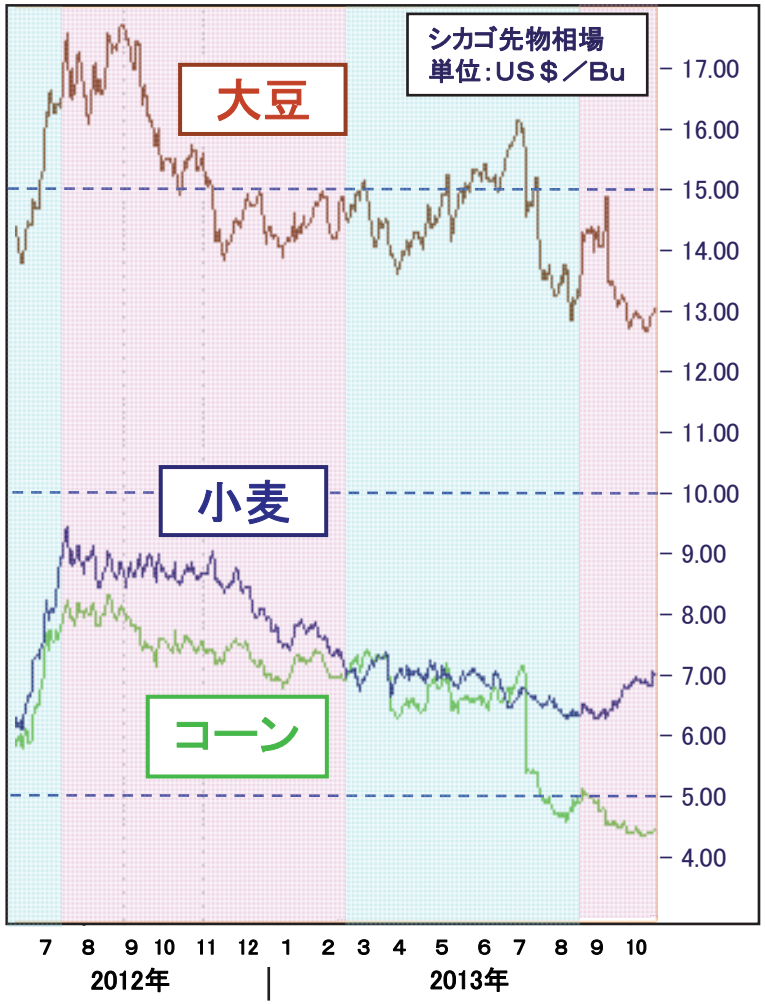
【穀物相場推移】



注）グラフの背景の色は、農水省の輸入小麦売渡価格算定期間ごとに色分けしている

1．小麦相場の状況②

【穀物相場推移　2012年7月以降】



大豆・コーン

- 大豆、コーンは世界在庫レベルが低水準で推移する中で、2012年産の米国の56年ぶりの大旱魃により7月から急騰
- 大豆は2012年9月に史上最高値（17.7US$/bu）、コーンは同8月に史上最高値（8.3US$/bu）を記録
- 10月以降は、南米の増産見込みから軟調に推移
- 2013年7月に米国産の豊作見込みから急落し、特にコーンは3年振りに5US$/bu割れ

小麦

- 小麦は2012年7月に大豆・コーンに追随して高騰
- 2012年8月以降は、世界在庫レベルが潤沢で、2012年産も豊作であったため、価格は軟調に推移
- 2013年7月以降は、大豆・コーンの価格下落に対して、小麦は2013年産の一部地域の減産懸念に加えて、中国の不作による輸入増加もあり、やや強含みに推移

1．小麦相場の状況③

➢2013年10月期　麦価値上げの背景　（改定額算定期間：2013年3月～8月）

・2012年8月以降は、世界在庫レベルが潤沢で、2012年産も豊作であったため、価格は軟調に推移

・一方で、昨年12月以降の円安により、政府買付け価格は上昇

2013年10月期麦価改定算定期間：平均99円/米ドル　前期：平均84円/米ドル

（農林水産省資料より）

▽

2013年10月　1日～　輸入麦政府売渡価格4．1%値上げ

12月20日～　日清製粉　業務用小麦粉の値上げ（3回連続の値上げ）

➢次回（2014年4月）麦価改定　（改定額算定期間：2013年9月～2014年2月）

【今後の小麦相場の見通し】

上昇要因

- 天候不順によるｱﾙｾﾞﾝﾁﾝの生育遅れ、ﾛｼｱ、ｳｸﾗｲﾅの作付遅れによる減産懸念
- 中国産小麦の不作（数量減・品質懸念）による中国の輸入量の増加見込み

下落要因

- カナダ産、豪州産小麦の豊作見通しによる世界小麦生産量の増加
- 米国冬小麦地帯の土壌水分改善と好天による2014年産の播種・作付進展

2. TPPについて①

TPP交渉の推移

➢2013年7月　日本がTPP交渉に参加

（参加12カ国・・・アメリカ、カナダ、ニュージーランド、チリ、メキシコ、ペルー、オーストラリア
ブルネイ、マレーシア、ベトナム、シンガポール、日本）

＊政府・・・「農林水産分野の重要5品目（米、麦、牛・豚肉、乳製品、砂糖）の聖域の確保を最優先する」との考え

重要5品目

コメ	58	品目
麦	109	
牛・豚肉	100	
乳製品	188	
砂糖	131	
計	586	品目

全品目9,018品目のうち、重要5品目586品目の関税を全て維持した場合、自由化率は93．5%となる

➢2013年10月　TPP交渉　バリ（インドネシア）

・年内妥結に向けて取り組むことを合意
・関税交渉で、最もセンシティブな品目の取扱いの合意が課題となっている

▽

自民党TPP対策委員会→対象品目について検証をする方針

2. TPPについて②

＜TPPに対する視点＞

① 現在日本で使用されている小麦の9割は海外に依存しており、食料安全保障面で支障がないよう、国民の主要食糧である小麦の安定確保についての十分な検証が必要

② 小麦は幅広い食品の原料に使用されており、小麦生産者、製粉産業、食品産業、消費者、すべての段階での影響を踏まえた国境措置の整合性の維持が必要

当社グループは引き続き、国民の『健康で豊かな生活づくりに貢献する』ことを目指し、**安全・安心な製品を安定的に生産・供給**していくことと、将来に想定される海外の製粉会社及び海外からの輸入品との競争において、コスト面で**勝ち抜けるコスト競争力**の強化をスピード感を持って推進していく

Ⅱ．第2四半期（累計）実績と通期見通し

1．第2四半期（累計）実績

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

- 国内業務用小麦粉、加工食品の出荷伸長及びミラー・ミリング社、チャンピオン製粉の連結効果等により、第2四半期累計で売上高は**過去最高**（前年比＋7．9%）
- 出荷伸張に加え、各事業におけるコストダウン、ふすま市況堅調等により**増益**（営業利益前年比＋4．0%、経常利益前年比＋3．3%）
- 当期純利益も**増益**（前年比＋4．2%）

（単位：百万円）

	2014年3月期 第2四半期（累計）実績	業績見通し		前年	
		見通し	比	実績	比
売上高	239,322	238,000	＋0.6%	221,797	＋7.9%
営業利益	10,305	10,300	＋0.1%	9,912	＋4.0%
経常利益	11,845	11,700	＋1.2%	11,468	＋3.3%
四半期純利益	7,119	6,900	＋3.2%	6,833	＋4.2%

※金額は百万円未満切り捨て

2. 2014年3月期通期　見通し

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

- 各事業におけるトップライン（売上高）の拡大及び製粉海外子会社の連結効果等により**増収**見込み（前年比＋7．6%）
- トップラインの拡大に加え、コストダウンの実行等により**増益**見込み（営業利益前年比＋9．0%、経常利益前年比＋6．3%）

（単位：百万円）

	2013年3月期 実　績	2014年3月期 見通し	前年差	前年比
売上高	455,566	490,000	+34,433	＋7.6%
営業利益	21,740	23,700	+1,960	＋9.0%
経常利益	24,742	26,300	+1,558	＋6.3%
当期純利益	13,688	16,000	+2,311	＋16.9%

＊2013年5月発表の業績予想を据え置く

※金額は百万円未満切り捨て

Ⅲ．中期経営計画の進捗と具体的成果

NNI-120

1．具体的成果

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

中期経営計画 「NNI-120、スピードと成長、拡大」 NNI-120

2012年	2月	オリエンタル酵母工業㈱ 総菜新工場稼働（千葉県富里市、旧工場の約2倍の能力）
	3月	ミラー・ミリング社買収（全米9位の製粉会社）
	4月	*中期経営計画 「NNI-120、スピードと成長、拡大」スタート*
	5月	製粉福岡新工場建設に着工（2014年2月稼働予定）
		日清ファルマ㈱ 自社通信販売を開始
	8月	日清ファルマ㈱ 医薬品原薬「EPA－E」の本格出荷を開始
	10月	日清製粉プレミックス㈱設立 開発・製造・販売を一体化したｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｶﾝﾊﾟﾆｰ
	12月	総合中食サプライヤー トオカツフーズ㈱に出資（持分法適用会社に）
		㈱NBCメッシュテック インドネシア工場生産能力倍増
		オリエンタル酵母工業㈱ 新補酵素棟稼働（滋賀県長浜市、生産能力40%増強）
2013年	1月	日清STC製粉㈱（タイ） 生産能力20%増強
	2月	チャンピオン製粉買収（ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ最大の製粉会社）
		ミラー・ミリング社 生産能力30%増強
		日清ペットフード㈱ “国産”療法食市場に参入
	4月	インドネシア日清テクノミック㈱ 事業開始（業務用ﾌﾟﾚﾐｯｸｽの販売）
	6月	ベトナム日清製粉設立 （調理加工食品製造拠点、2014年秋工場稼働予定）
	8月	タイ日清テクノミック㈱ 生産能力25%増強に着工（2014年末稼働予定）
	10月	製粉知多工場新ライン増設に着工（2015年5月稼働予定）

2. 国内製粉工場の生産集約①

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

福岡新工場の建設　最終ステージ

- 設備投資額：約100億円
- 生産能力：550ﾄﾝ/日（2ライン）
- 2014年2月稼働予定
- 鳥栖・筑後の2工場閉鎖



（建設中の福岡新工場　2013.9撮影）

知多工場新ライン増設　着工

- 設備投資額：約60億円
- 新ライン生産能力：320ﾄﾝ/日
  （知多工場の生産能力：660ﾄﾝ/日→980ﾄﾝ/日）
- 2013年10月着工、2015年5月稼働予定
- 名古屋工場一部ライン停止



（新ライン増設後の知多工場の完成予想図）

※生産能力は原料小麦ベース

将来に想定される海外の製粉会社及び海外からの輸入品との競争において、コスト面で勝ち抜けるコスト競争力の強化をスピードを上げて推進

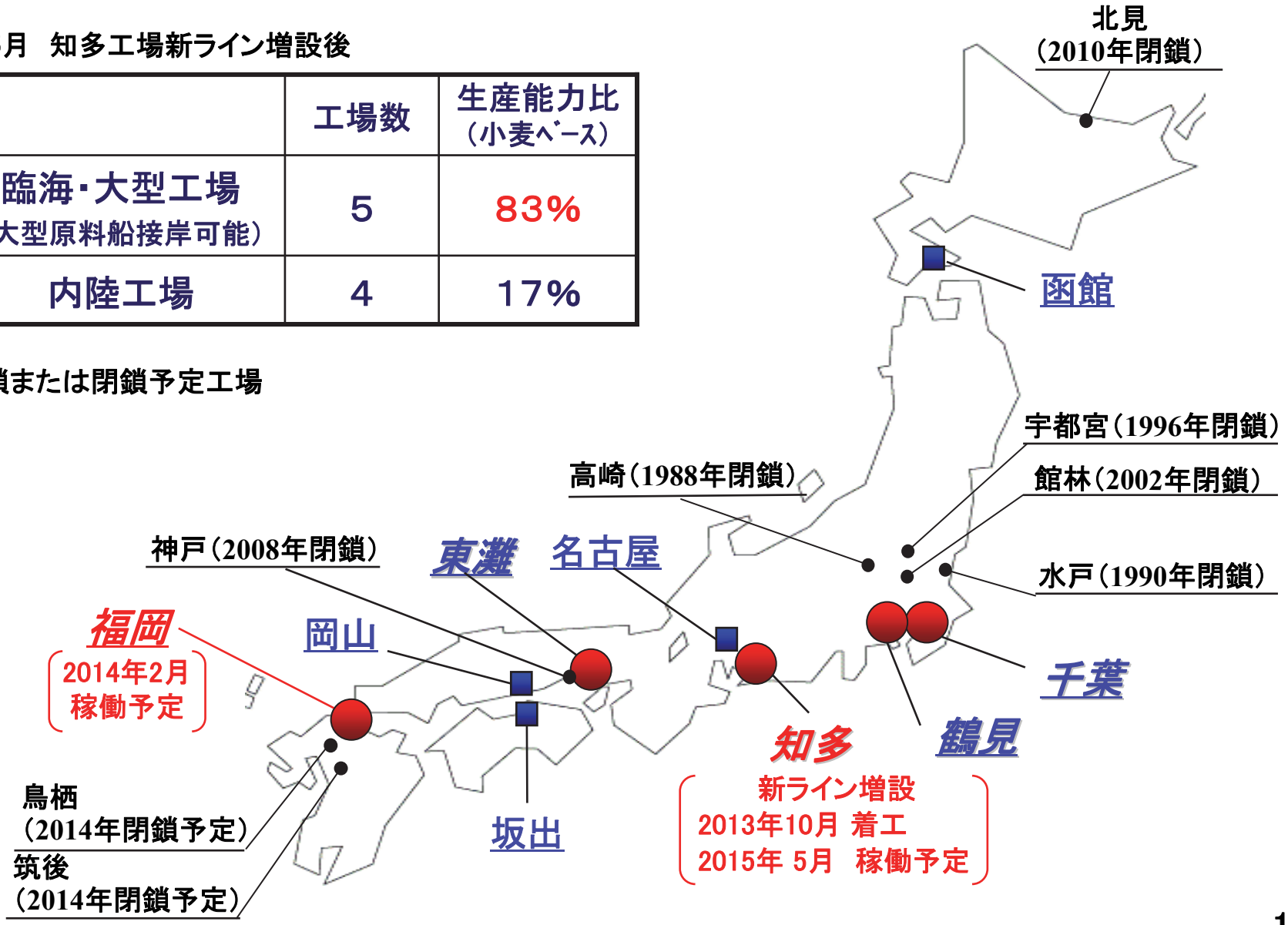
2. 国内製粉工場の生産集約②

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

＊2015年5月　知多工場新ライン増設後

		工場数	生産能力比（小麦ベース）
●	臨海・大型工場（大型原料船接岸可能）	5	83%
■	内陸工場	4	17%

●：閉鎖または閉鎖予定工場



3. 中食・惣菜事業の強化

中食・惣菜事業を成長分野の一つと位置付け、グループの主力事業に育てるべく取組みを強化

- 量販店との取組み強化等により業績順調（イニシオフーズ）
- 昨年12月に出資したトオカツフーズ㈱とのシナジー創出に向けた取組みを実行

トオカツフーズ		当社グループ
・全国的な生産拠点 ・幅広い生産ノウハウ	＋	・商品開発力 ・品質管理ノウハウ

トオカツフーズ㈱　会社概要
2012年12月　同社の普通株式49%他を取得（持分法適用会社）
・国内有数の中食・惣菜サプライヤー
・連結売上高：約900億円
・全国に惣菜工場16工場　冷凍食品工場2工場保有
・ｺﾝﾋﾞﾆｴﾝｽｽﾄｱを中心に弁当・惣菜・ｻﾝﾄﾞｲｯﾁ・おにぎり等を供給

4. 海外事業の拡大(製粉事業)①

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

ミラー・ミリング社(米国)

〔2012年3月　買収
2013年2月　生産能力30%増強〕

- 生産能力30%増強を活かした、積極的な拡販策の推進
- 当社のノウハウを活かした提案営業によるベーカリー等への出荷拡大

チャンピオン製粉(ニュージーランド)

〔2013年2月　買収〕

- PMI*を推進し、会社組織の整備、ITシステムの構築等を実施
- 現地小麦粉マーケットの把握ときめ細かい営業活動による小麦粉・ミックスの拡販

＊PMI(Post Merger Integration)・・・M&A後の統合プロセス

日清STC製粉(タイ)

〔2013年1月　生産能力20%増強〕

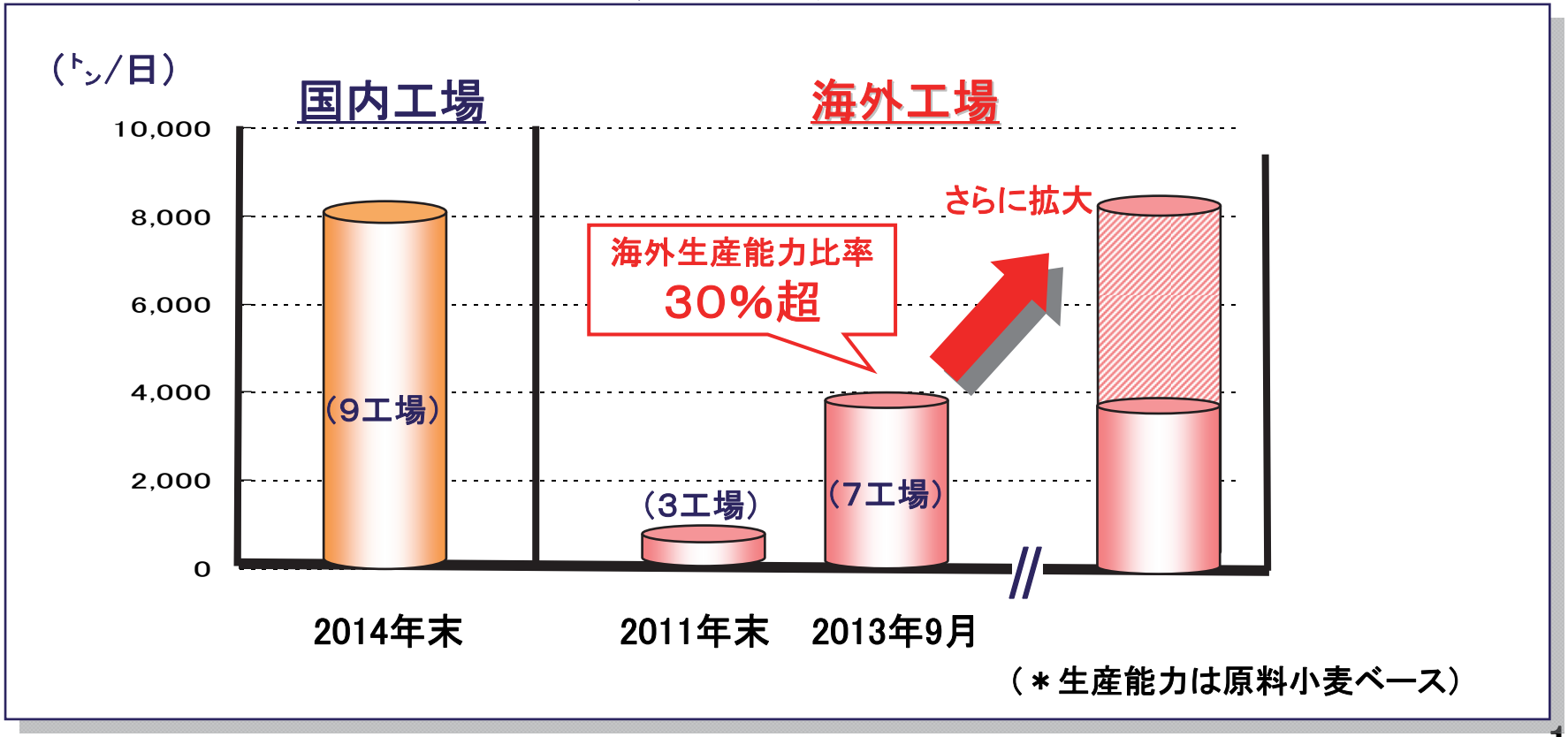
- 生産能力20%増強を活かし、安定かつ高品質を求めるユーザーへの拡販及び近隣諸国への輸出増大

4. 海外事業の拡大（製粉事業）②

◆海外製粉事業

引き続きM&A・アライアンス等を積極的に推進し、海外事業を拡大

国内・海外製粉工場　生産能力



5. 海外事業の拡大(食品事業)①

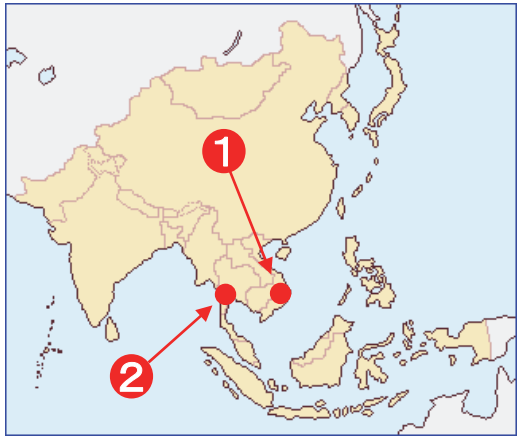
健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

ベトナム日清製粉　設立

調理加工食品の日本国内向けの供給拠点の増強及び将来的なASEAN地域の市場開拓を目的として、ベトナムに現地法人を設立し、海外事業展開を加速

- 会社名:ベトナム日清製粉　❶
- 設立:2013年6月
- 資本金:約8億円
- 事業内容:調理加工食品(パスタソース等レトルト食品)の製造・販売
- 工場稼働:2014年秋予定
- 工場設備投資額:約15億円

【調理加工食品の海外生産拠点】



❷ タイ日清製粉㈱(1989年操業開始)

現在、パスタソース等の調理加工食品の生産拠点は国内とタイ日清製粉㈱であるが、今後はベトナムを加えた3拠点体制となる

5. 海外事業の拡大（食品事業）②

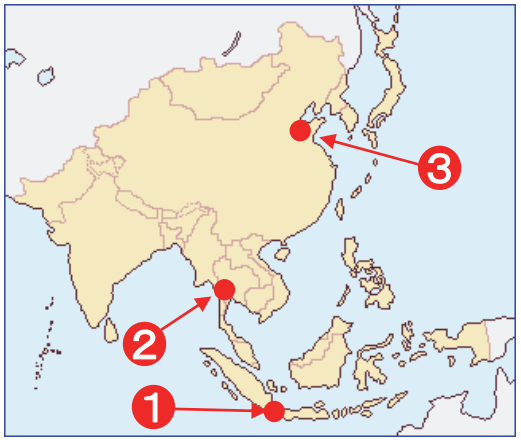
海外業務用プレミックス事業の拡大

現在の業務用プレミックスの海外拠点は、新日清製粉食品（青島）有限公司とタイ日清テクノミック㈱の2工場・2営業体制であるが、新たにインドネシアに販売会社を設立し、2工場・3営業体制とし、また、タイ日清テクノミックの生産能力を25%増強し、ASEAN地域を中心にプレミックス事業の更なる拡大を図る

➢インドネシア日清テクノミック㈱　設立 ❶
- 事業開始：2013年4月
- 事業内容：業務用プレミックスの販売
- 資本金：約1億円

➢タイ日清テクノミック㈱　生産能力25%増強 ❷
- 増強能力：6,000トン/年
  （26,000トン/年→32,000トン/年）
- 稼働：2014年末予定
- 投資額：約2億円

【業務用プレミックスの海外拠点】



➢新日清製粉食品（青島）有限公司 ❸

業務用プレミックスの製造販売（2002年設立）、生産能力：10,000トン/年

6. 主な海外拠点

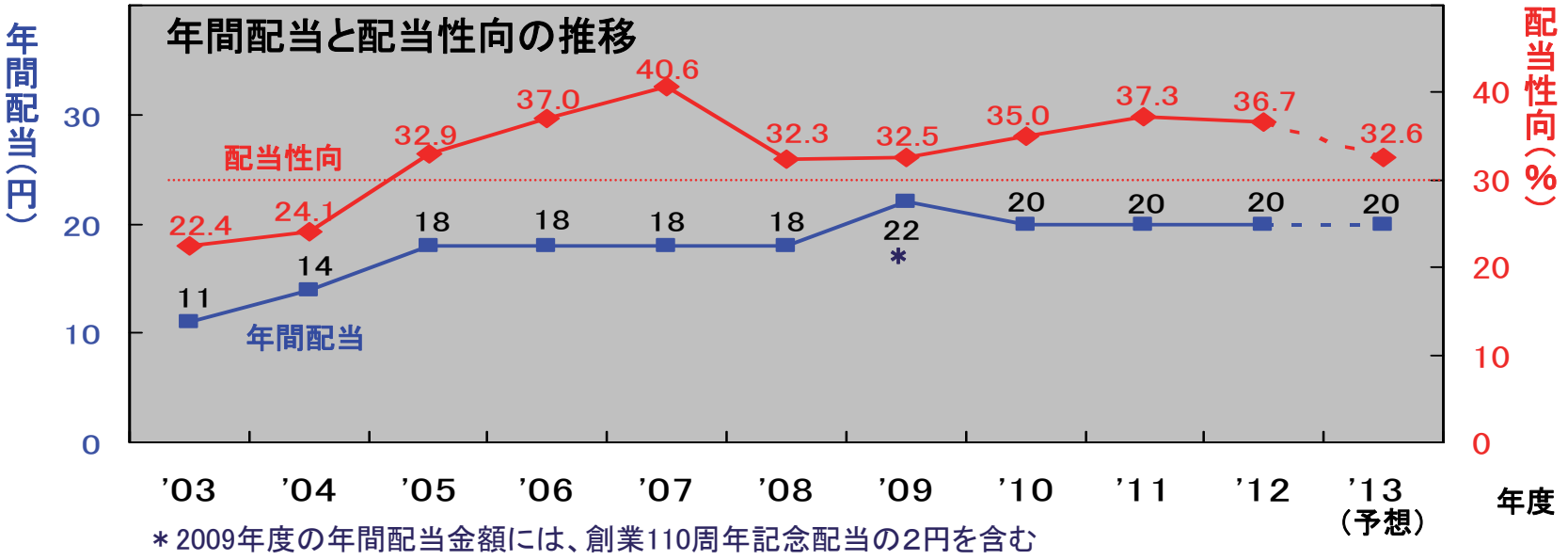

ロジャーズ・フーズ
本社／アームストロング工場
ミラー・ミリング　本社
ダイナメッシュ
OYC　EU
NBCﾒｯｼｭﾃｯｸ　欧州駐在員事務所
ロジャーズ・フーズ
チリワック工場
メダリオン・フーズ
フード・マスターズ
ミラー・ミリング
ウィンチェスター工場
新日清製粉食品（青島）
日清製粉東酵（上海）商貿
恩美絲（上海）紗網貿易
日清STC製粉
ミラー・ミリング
フレズノ工場
Oriental Yeast India
ベトナム日清製粉
（2014年秋稼働予定）
タイ日清テクノミック
タイ日清製粉
OYC Americas
ｵﾘｴﾝﾀﾙ酵母工業
ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ駐在員事務所
ｲﾝﾄﾞﾈｼｱ日清ﾃｸﾉﾐｯｸ
NBCインドネシア
チャンピオン製粉本社
チャンピオン製粉
マンガヌイ工場
チャンピオン製粉
クライストチャーチ工場
●：製粉事業
●：食品事業
●：酵母・バイオ事業
●：メッシュクロス事業

Ⅳ．利益配分について

利益配分について

健康と信頼をお届けする 日清製粉グループ

現在及び将来の収益状況及び財務状況を勘案するとともに、連結ベースでの配当性向30%以上を基準として、配当を継続的に行う



＊2009年度の年間配当金額には、創業110周年記念配当の2円を含む

- 株主の皆様への利益還元及び株式の流動性の向上を図ることを目的として、2013年10月１日付けで、1株につき1.1株の割合をもって**株式分割**を実施（分割に伴う配当金の調整は行わず実質増配予定、配当総額の増加は通年ベースで約5億円程度）
- 同日付けで単元株式数を500株から100株に変更
- 今後においても、成長、拡大に向けた戦略投資を含め、現在及び将来の収益状況及び財務状況を勘案して、機動的な株主還元を実施

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。